

- ◆企画名 図書館広報誌 KULione vol.6 の誌面作成  
日 程 平成 26 年 11 月 25 日 (火) ～平成 27 年 3 月 31 日 (火)  
場 所 関西大学千里山キャンパス構内、関西大学総合図書館  
参加者数 10 名 (ピア・サポータ 7 名、研修生 3 名)  
目 的

KU コアラおよびその活動内容を多くの学生に知ってもらい、興味を持ってもらう。

#### 内 容

図書館広報誌 KULione vol.6 4 ページ目の上 2/3 に KU コアラの活動報告を掲載。活動報告では、2014 年度秋学期に実施した「今月の本」での活動を紹介した。また、今回は併せて、図書館事務室作成誌面に撮影モデルとして参加した。

#### 効 果

普段の活動ではメンバーが表にできることが少なく、企画をしてもどこがその企画をやっているのか認識されていない場合も多い。しかし、KULione を友人に見せたところ今月の本という展示が図書館で行われていることは知っていたが、KU コアラの企画だったというのは KULione を見て知ったという感想をもらったり、今年入った KU コアラの研修生に KULione を見て存在を知ったと聞くことができたので、KULione に KU コアラがどのような活動を行っていたかを掲載し、メンバーがモデルを行うことで、KULione を見た人に KU コアラの存在およびその活動について知ってもらう機会が増えたといえる。

#### 改 善 点

メールのチェックのし忘れにより企画の進行が滞ってしまうことがあったため、企画責任者は特にまめなメールチェックを心掛けるよう気を付ける。

関係書類や原稿を期限がせまってから提出することが多かったため、校正にかかる時間をあまり取れなかった。よりよいものを作るために余裕をもって提出し校正にかかる時間を多くとるよう努めるべきである。

「コアラ☆ミュージアム」や「関大生に読んでほしい本 100 選」など他の企画に対する認識不足により記事の修正を加えるのを忘れてしまった結果、KU コアラの活動報告の記事が曖昧な表現での掲載になってしまった。KULione での活動報告の記事を作成するうえで、他企画についての認識をしておくべきであった。

#### 感 想

この企画では KU コアラの活動報告記事という内容上、図書館事務室の方だけでなく他企画の責任者との連携も重要な企画であると感じた。

KULione は構内のさまざまな場所に置かれるため、比較的活動範囲の広くない KU コアラにとって多くの人に活動を知ってもらう良い機会であるので今後の活動のためにも是非続けていきたい。